

歴史家の暴挙に喝采

会員 西沢英男

第54回例会、開口一番「これは暴挙ですよ」で始まった坂井先生の『ワイマル共和国を考える』は、歴史の見方、考え方を大変分かり易く説かれた話だった。1919年に成立し、1933年にわずか14年でその幕を閉じたワイマル共和国の「ありよう」の一面を歴史家の眼が鋭く捉える。先生はこのひ弱な民主主義共和国の実態を国会選挙と投票率、党派の勢力関係から解き明かす。この国の国民の政治参加意欲の高さはドイツ帝国議会選挙以来のものであったが、このワイマル共和国においては、その意欲はさらに顕著になり、それが投票率の高さ（75%～80%以上）になって表われた。しかし伝統的な枠組みにしばられた政党が乱立していて、国民の政治参加意欲をワイマル共和国は生かせなかった。

これに対して従来のしがらみに捉われず、新しい支持基盤を開拓し、国民の政治参加意欲を巧妙かつ食欲に利用したのがナチスであった。ナチスの選挙運動は都市から農村へ展開、支持層をどんどん拡大して遂にドイツで最大の政党に成長した。これがナチスの強さであった。

さらに先生は、自らもそう考えていた、「長い19世紀、短い20世紀」説に一石を投じた「長い20世紀（川越修氏の説）」について言及。それは、大衆民主主義型の政治文化で、世紀末に生まれてワイマルで発展、ナチスという鬼子を産みながらも、その反省を踏まえて今日に続いているというもののだが、世紀末から今日までを一続きと捉え、その中にワイマル共和国を位置づけるのも一つの見方である、と氏の説を評価された。

歴史の経験からするとある事柄が定着するには100年にかかる。だから、ワイマル共和国にもう少し時間を与えたかった。議会制民主主義も定着するには時間が必要なのだ。加えて、この共和国の立役者シュトレゼマン外相の「早すぎる死」は独仏協調体制を頓挫させ、さらにはヒトラーの登場を早めた。これはドイツにとってまことに遺憾

「堪えないことであつた等々、世界史の教科書のありきたりの解説からはとても知りえないことを、先生はたっぷりお話し下さった。

シュタウフェンの会のよしみから当方の依頼をご快諾頂いて、「今日の話はワイマル共和国の専門家、木村靖二君のお膝元での暴挙です」との冗談をまじえての90分余りのお話。とてもためになり、さながら歴史家坂井教室での明解な講義そのもの、先生の暴挙に心から拍手喝采を送りたい。

湘南日独協会 2008 年度活動予定

2008 (H20) は湘南日独協会創立 10 周年!!

■ 2 月の会員懇話会 2 月 23 日 (土) 午後 6 時～

毎週日曜日午後 11 時から TBS テレビで放映されている「世界遺産」で、昨年 11 月 25 日に「古典主義の都ヴァイマル・ドイツ」が放映されました。当日はこれを録画で見たのち、ヴァイマルについて、更に今秋に予定されているヴァイマル独日協会一行 30 名の歓迎について語り合いたいと思います。

■ 第 56 回例会 日程未定。

講演会 ドイツ語を楽しむ(仮題)

講師 岩崎英二郎氏(当協会名誉会長)

■ 会員懇話会 4 月 26 日 (土) 内容未定。

■ 第 57 回例会 5 月 25 日 (日)

講演会 内容未定。

■ 会員懇話会 6 月 28 日 (土) 内容未定

湘南日独協会会報 (Der Wind)

VOL. 10. NO. 1. 通巻 55. 発行 2008. 1. 27.

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局：〒251-0025 藤沢市鵠沼石上 1-1-1

江ノ電第 2 ビル 7 F

TEL 0466-26-3028 / FAX 0466-27-5091

No. 55.

湘南日独協会 会報

Der Wind

(風)

当協会創立 10 周年！

今秋ワイマル独日協会一行 30 名来湘！

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

■ 第 55 回例会・定例総会

日時 1 月 27 日 (日) 午後 1 時 30 分～3 時 30 分

①テーマ 「モーツァルトの誕生日に寄せて」

②第 10 回定例総会

例会の当日は何と丁度モーツァルトの“252 回目の誕生日”に当たります！ また、今年はベートーベンの交響曲第 5 番（運命）と第 6 番（田園）が出来て 200 年、カラヤン生誕 100 年でもあり、これに因んでモーツァルトやベートーベンに関するビデオを鑑賞し、皆さんで語り合う例会といたします。コーディネーターは宮下啓三氏と能登崇氏が担当されます。

特別企画行事終了の後、当協会創立 10 周年を迎える定例総会を開催します。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

新会員紹介 …(敬称略) どうぞよろしく！

樋口由美子	黒田誠子	高野 裕
大倉 薫	藤田治子	西川 統
関川由美子	横川俊憲	平野嗣和
石井康裕	広瀬春子	阿部 仁
永井りつ子	赤池達正	赤池孝子

[新シリーズ] ワイマールを知ろう①

ワイマールと銀杏の不思議な関係

ワイマールは薫り高いヨーロッパ指折りの文化都市です。ドイツ中央部の小さな町ですが、1999年欧州文化首都に指定されました。ゲーテ、シーラー、バッハ、バウハウスのマイスターを筆頭とする文化人の足跡を巡りをする多くの観光客はワイマールの魅力の虜となってしまうのです。

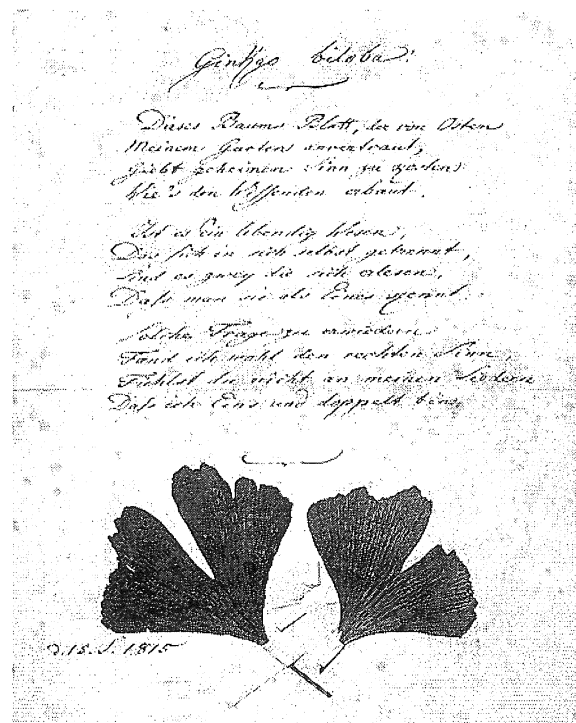
ベルリンから列車で3時間あまり、ワイマールの秋祭りはミュンヘンのようにビールを際限なく飲みまくるというよりは、収穫祭を兼ねた文化祭といった感じです。それほど大きな町でもないのに、朝から夜更けまですさまじい人の出で、通りには屋台がところ狭しと続き、その合間を縫うようにして、市内いたるところでコンサートが開かれています。広場という広場に仮設ステージが設けられ、細い路地にいたるまで何かの演奏をやっています。演奏のレベルも極めて高く、さすがゲーテとシーラーそしてリストの都といったところでしょうか。

さて、300年の歴史をもつ収穫祭の主人公は玉ねぎです。大小さまざまの玉ねぎが花束ならぬ野菜束となって売られていて、これが飛ぶように売られています。旬の玉ねぎで作ったタルトがビールによく合います。

美しい書体で「銀杏」と書かれた看板がある。そのしたにはGINKGOのロゴ。銀杏の苗木を売っているのです。銀杏の香油、銀杏の実、銀杏デザインの食器や文房具と銀杏づくしの店があるのです。奥には銀杏関係の本が積まれ、その隣りはなんと銀杏博物館が！！

ゲーテがワイマールにある自宅の庭に、銀杏の木を植えていたことはよく知られています。それにあやかっただけの銀杏ビジネスはなかなか繁盛していて、左手に玉ねぎ、右手に銀杏の苗を抱えて帰る人をけっこう見かけられます。

ワイマールの銀杏は、どうやらヨーロッパとアジアを結ぶ象徴として受け入れられているようです。



ゲーテが書いた自筆の詩「銀杏の葉」

GINKGO BILOBA

Johann Wolfgang Goethe

Dieses Baumes Blatt, der von Osten
Meinem Garten anvertraut,
Giebt geheimen Sinn zu kosten
Wie's den Wissenden erbaut.

Ist es Ein lebendig Wesen
Das sich in sich selbst getrennt,
Sind es Zwey die sich erlesen,
Dass man sie als Eines kennt.

Solche Frage zu erwidern
Fand ich wohl den rechten Sinn,
Fühlst du nicht an meinen Liedern
Dass ich Eins und doppelt bin.

“銀杏”は神奈川の県の木

会員 吉田克彦

ドイツの古都ワイマールでは何故か銀杏が大変もてはやされています。銀杏の樹木も大切にされていますし、銀杏グッズも各種取り揃えられています。更に驚くのは銀杏博物館まで出来ているというのですから、これはもうタダゴトではありません。

翻ってみますと銀杏と言えば真っ先に思い出すのは鎌倉は鶴岡八幡宮の銀杏でしょう。何故かと言えば八幡宮の石段に 立てる一木の大鴨脚樹(銀杏) 別当公暁のかくれしと 歴史にあるのはこの蔭よ

……………(明治33年 鉄道唱歌)

由比の浜べを右に見て 雪の下村過行けば、
八幡宮の御社。

上るや石のきざはしの 左に高き大銀杏、
問わばや、遠き世々の跡。

……………(明治43年 小学唱歌)

とありまして、これが私達の脳裏に刷り込まれているからでしょう。ところが残念ながら「鎌倉市の木」は山桜で銀杏ではありません。市の木や県の木となっているのは横浜市、神奈川県、東京都など関東から九州に至る何と33都市を数えますから日本では如何に親しまれた樹木であるかが分かります。それなのに銀杏グッズに余りお目に掛からないのは日本人にとって余りにもなじみ深い樹木だからでしょうか。

調べてみますと銀杏は中生代、今から1億5千万年ばかり昔の恐竜が闊歩していたジュラ紀には世界的に分布していましたが、氷河期を迎えた頃に殆ど絶滅してしまい、11世紀の初め頃に中国の宣城県付近で発見されて日本に持ち込まれたのは平安時代の末から鎌倉期とされているようです。ヨーロッパには17世紀の頃に渡ったようですからワイマールでも珍しい東洋の植物として銀杏が珍重されたのでしょうか。

それは兎も角としまして、ワイマールの人達に負けないように我々も銀杏を大切にしたいものです。